

2018 年度前期授業アンケート結果の分析・総括

研究教育開発センター

1. 選択式回答（5段階評価）

① 全体的傾向（大学全体の平均値）

授業内容に関わる設問は、下記の7項目である。

- ・ 授業全体の目標は明確でしたか【目標の明確さ】
- ・ 授業に対する教員の意欲が感じられたと思いますか【教員の意欲】
- ・ この授業では、教材などの事前準備がしっかり行われていましたか【準備の周到さ】
- ・ 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいと思えましたか【明瞭な話し方】
- ・ この授業は、学習しやすい環境が保たれていましたか【環境の整備】
- ・ 学びに対する意欲をかきたてられましたか【学習意欲の喚起】
- ・ この授業を受講して満足しましたか【総合満足度】

授業（講義科目）に関する総合満足度（以下、「総合満足度」と表記）を確認する「この授業を受講して満足しましたか」という設問に対する受講生の回答の平均値は、4.36である（最終頁の集計表参照）。以上から、受講生が本学の授業に対しておおむね満足していることが垣間見える。さらに、その他の設問項目についても、回答の平均値が4.25以上であることから、受講生が総じて本学の授業を高く評価しているといえる。

以上のように、本学の授業は受講生からおおむね高い評価を得ているが、授業規模が大きくなるほど、受講生の授業に対する評価が若干低下するという傾向については注意を払う必要がある。

今回、「50人以下」「51～100人」「101～200人」「201人以上」という4つの授業規模別に集計を行ったところ、以下のような状況が浮き彫りとなった。

- 設問「この授業は、学習しやすい環境が保たれていましたか」
授業規模：50人以下 4.61 ⇒51～100人 4.43 ⇒101～200人 4.33 ⇒201人以上 4.27
- 設問「この授業を受講して満足しましたか」
授業規模：50人以下 4.48 ⇒51～100人 4.32 ⇒101～200人 4.28 ⇒201人以上 4.30

以上のように、授業規模が大きい授業の場合、受講生にとって快適な学習環境を保持することがやや難しくなり、受講生の「総合満足度」が若干低下するという傾向が認められる。授業規模と授業評価の高低との間には、ある程度相関性があるといえる。こうした点を踏まえると、今後、履修登録者数の上限設定に関する検討が必要であるように思われる。

② 学部・学科別傾向（授業担当者の所属学科別平均値）

◆ 経済学部

受講生の「総合満足度」を確認する「この授業を受講して満足しましたか」という設問の学科別平均値は、経済学科が4.04、経営学科が4.23である。以上から、経済学部の教員が担当

している授業は、受講生から比較的高く評価されていることがわかる。

しかし、全ての設問項目で学科別平均値が、他学部の各学科よりも若干低い傾向にある。たとえば、「学びに対する意欲をかきたてられましたか」という設問の学科別平均値は、経済学科が 3.91 (全学科で唯一 4.00 を下回っている)、経営学科が 4.08 と、他学科よりもやや低い。なお、全設問項目において経済学科の学科別平均値は、経営学科よりも低くなっている。

◆ 福祉社会学部（現代社会学科は除く）

全ての設問項目の学科別平均値は、社会福祉学科が 4.36 以上、児童学科が 4.51 以上である。また、受講生の「総合満足度」を確認する「この授業を受講して満足しましたか」という設問の学科別平均値は、社会福祉学科が 4.48、児童学科が 4.59 である。以上から、福祉社会学部の教員が担当している授業は、受講生から高く評価されていることがわかる。

両学科でやや差 (0.15 以上) が開いたのは、「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいと思われましたか」（社会福祉学科 4.47、児童学科 4.60）と「学びに対する意欲をかきたてられましたか」（社会福祉学科 4.36、児童学科 4.51）の 2 つの設問である。

◆ 国際文化学部

全ての設問項目の学科別平均値は、国際文化学科は 4.38 以上、音楽学科は 4.77 以上である。また、受講生の「総合満足度」を確認する「この授業を受講して満足しましたか」という設問の学科別平均値は、国際文化学科が 4.44、音楽学科が 4.79 である。以上から、国際文化学部の教員が担当している授業も、受講生から高く評価されていることがわかる。

なお、国際文化学科の場合、「学びに対する意欲をかきたてられましたか」という設問の学科別平均値 (4.38) が、他の設問に比べると若干低くなっている。

2. 自由記述式回答

授業アンケートの回答方式は、2016 年度後期より、スマートフォンやパソコンからの WEB 入力方式に変更された。その影響であろうか、2017 年度以降、授業アンケートの自由記述欄の記載量がかなり多くなっている。以下、主な記述内容を示す。

(1) 「良い点」（全体的傾向）

受講生への配慮が感じられる授業については、学生も好意的に評価している。具体的には、以下のような配慮が受講生に評価されている。

➤ 授業準備・開始段階での配慮

- ・授業計画などの授業準備の周到さ
- ・事前に取り組むべき予習課題の提示
- ・入室時間の制限や携帯電話使用禁止の事前告知（静穏な授業環境維持）

➤ 教材・教具に関する配慮

- ・ワークシートやコメントカード、小テストなどの活用
- ・パワーポイントやスライドの活用
- ・ビデオ、動画、画像などの視聴覚教材の活用

- 授業内容・形態に関する配慮
 - ・知的好奇心をくすぐる授業内容
 - ・グループワーク、ディスカッションなどアクティブ・ラーニングによる受講生間交流

- 学生との接し方、話し方に関する配慮
 - ・声の聞き取りやすさ、説明のわかりやすさ
 - ・授業に対する教員の熱心さや授業姿勢

(2)「改善を要する点」

① 全体的傾向

「改善を要する点」も少なからず存在する。具体的には、以下のような項目が、ほぼ全ての学科の受講生から改善要望として挙げられている。なお、下記の「改善を要する点」は今回に限ったことではなく、2016年度及び2017年度に実施した授業アンケートでも挙げられている。

なお、以下の「改善を要する点」は、全授業担当者（大学全体）で共有すべきものである。授業の計画・実施の際に、全授業担当者が、これらの項目にあらためて注意を払うことが必要である。

- 授業計画の不明瞭さ
- 説明の聞きとりづらさ（声の大きさ、話す速度など）
- 板書、スライドの見づらさ（文字の小ささ・汚さ、誤字脱字、板書を消す速さなど）
- 授業内容のわかりづらさ
- 学生の私語や携帯電話使用に対する対応の不十分さ
- 教員の遅刻、授業終了時間の遅延

② 国際文化学科の授業に対する固有の要望（留学生への対応に関わる改善要望）

国際文化学科は留学生の受け入れ数が多いことから、同学科の教員が担当している授業のアンケート（自由記述欄）に、日本人学生が、留学生への対応に関わる改善要望を記していることも少なくない。

たとえば、「留学生が授業に集中していないので注意して欲しい」や「留学生がスマートフォンで検索している姿が目立つ」といった意見が記されている。また、留学生が授業についていけないことを危惧する記述もあった。さらに、「留学生に対してSAやチューターを導入すべき」といった意見も出されている。

今後、他学科においても留学生が増加する可能性があるため、大学全体で、留学生のためのSAやチューターの導入などについて検討する必要があるだろう。

2018年度前期授業アンケート集計表（授業担当者の所属学科別平均値）

	大学 全体	経済学部		福祉社会学部		国際文化学部	
		経済 学科	経営 学科	社会福 祉学科	児童 学科	国際文 化学科	音楽 学科
授業全体の目標は明確でしたか	4.43	4.15	4.32	4.49	4.61	4.49	4.82
授業に対する教員の意欲が感じられたと思いますか	4.55	4.29	4.45	4.57	4.69	4.63	4.84
この授業では、教材などの事前準備がしっかり行われていましたか	4.56	4.22	4.50	4.62	4.68	4.66	4.82
教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいと思われましたか	4.38	4.05	4.21	4.47	4.60	4.46	4.88
この授業は、学習しやすい環境が保たれていましたか	4.45	4.10	4.28	4.51	4.63	4.53	4.87
学びに対する意欲をかきたてられましたか	4.25	3.91	4.08	4.36	4.51	4.38	4.77
この授業を受講して満足しましたか	4.36	4.04	4.23	4.48	4.59	4.44	4.79